

平成 18 年 4 月 13 日

各 位

財団法人 九州・山口地域経済貢献者顕彰財団

第 33 回（平成 17 年度）経営者賞受賞者決定のお知らせ

[第 33 回経営者賞受賞者](#)が別紙の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

以上

第33回（平成17年度）「経営者賞」受賞者

いりえ のぶあき

入江 伸明 氏（71歳）

IRIE NOBUAKI

株式会社 アステック入江 代表取締役会長

福岡県北九州市

1934年12月3日生

みずた あけよし

水田 明義 氏（65歳）

MIZUTA AKEYOSHI

株式会社ニシケン 代表取締役社長

福岡県久留米市

1940年11月3日生

にしやま やすお

西山 泰雄 氏（62歳）

NISHIYAMA YASUO

共立エレックス株式会社 代表取締役社長

佐賀県西松浦郡

1943年5月14日生

【特別表彰】

きむら じゅんじ

故 木村 順治 氏（享年73歳）

KIMURA JUNJI

北九州病院グループ 会長

福岡県北九州市

1932年4月3日生

第 33 回（平成 17 年度）経営者賞

氏 名	いりえ のぶあき 入江 伸明 氏 (NOBUAKI IRIE)			
生年月日(年齢)	1934 年 12 月 3 日生 (71 歳)			
会社名(役職)	株式会社アステック入江 代表取締役会長 (平成 17 年 10 月就任)			
所在地	〒805-8507 北九州市八幡東区西本町 3 丁目 1-1			
TEL & FAX	TEL093-661-1221 FAX093-661-7155			
事業内容	製鉄関連事業 [スチール事業(製鋼・鋼管)、スペース事業(ファインセラミックスの精密加工事業、環境・リサイクル事業、都市環境、メンテナンス関連事業)]			
資本金	100 百万円			
従業員数	670 名			
創業・創立 工場・営業所	1910 年(明治 43 年)創業 / 1957 年(昭和 32 年)設立 北九州市、大分市、光市、姫路市、堺市			
年間業績	売上高	経常利益(税引後)	自己資本比率	
	2006 年 7 月予想	10,000 百万		
	2005 年 7 月	9,898 百万	817 百万(485 百万)	14.4%
	2004 年 7 月	8,746 百万	550 百万(77 百万)	10.6%
	2003 年 7 月	8,186 百万	194 百万(23 百万)	9.7%
関連会社	株式会社エーアイ・スタッフ			
表彰要旨	1910 年、官営の八幡製鉄所に入江組として参画。1992 年アステック入江と改称。当社は新日鉄の一次下請企業で高度な技術力とノウハウをベースにファインセラミックスの精密加工事業や塩化鉄液リサイクル事業、都市環境メンテナンス事業など創造型事業の多角化を進め、地場優良企業に発展。昨年まで、新日鉄八幡の協力企業会会長であり、地元での影響力も大きく、新日鉄八幡の有力協力企業で構成される「八新会」の主要企業でもある。新日鉄の協力企業に共通する問題点として、「鉄鋼業依存経営からの脱却」が挙げられるが、当社は早くから新ビジネスモデルの構築に注力し、特に、独自の技術力にて日本で初めてエッチング(腐食加工)廃液を鉄粉により分離し、素材(ニッケルや銅など)として再生させて販売を行う F M(ファインメタル)事業をいち早く軌道にのせ既に売上			

規模では全体の30%(関東以西の売上では60%以上の占有率)を占め、当社事業の柱となっている。ニッケルや銅などを連続して分離、回収できるのは当社のみでこれにより5つの特許を取得、その製造技術力は高い評価を受けている。

従って、ここ4期は増収増益を続け、業績も安定している。

平成7年にはリサイクル推進協議会より会長賞、平成8年には(財)クリーン・ジャパンセンターより「世界初塩化鉄液再生処理」にて通産省環境立地局長賞を受賞。又、同年に中小企業先端技術展にて北九州市長賞受賞、平成14年には産業廃棄物処理業優良業者として北九州市より表彰されている。

平成12年にISO14001(国際規格)認証取得。

現在、入江氏は、小倉北区室町のリバーウォーク小倉の隣接地に一部キャンパスを開校した西日本工業大学の理事長、北九州活性化協議会の理事長を務め、昨年12月には北九州商工会議所の副会頭に就任。地元経済界及び地域教育の発展にも貢献している。

FM(ファインメタル)

FM(ファインメタル)とは鉄粉のことであり、IC産業で使用される電子部品などで排出される(特にリードフレームやテレビのシャドウマスクなど)エッチング(腐食加工)廃液に自社で製造した鉄粉を還元剤として使用し、廃液からニッケルや銅などの有価金属を分離、回収するとともに塩化第1鉄、第2鉄に再生。

第 33 回（平成 17 年度）経営者賞

氏 名	<p style="text-align: center;">みずた あげよし 水田 明義 氏 (AKEYOSHI MIZUTA)</p>			
生年月日(年齢)	1940 年 11 月 3 日生 (65 歳)			
会社名(役職)	株式会社ニシケン 代表取締役社長			
所在地	〒839-0804 福岡県久留米市宮ノ陣町若松 1-9			
TEL & FAX	TEL0942-35-5840 FAX0942-35-6355			
事業内容	総合レンタル業（建設事業、福祉事業、環境事業、アグリ事業、グラフィック事業）			
資本金	857 百万円			
従業員数	360 名			
創業・創立	1960 年（昭和 35 年）設立			
工場・営業所	福岡、北九州、久留米、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、広島に 9 センターを含む全 38 ヶ所の事業所			
年間業績		売上高	経常利益(税引後)	自己資本比率
	2005 年 12 月	14,200 百万	940 百万 (450 百万)	29.6%
	2004 年 12 月	13,827 百万	872 百万 (332 百万)	24.9%
	2003 年 12 月	13,560 百万	752 百万 (221 百万)	22.4%
	2002 年 12 月	13,419 百万	656 百万 (178 百万)	20.9%
関連会社	<p>株式会社ニシケン物流（一般貨物運送業）</p> <p>株式会社ニシケンテック（建設用仮設材の製造、改造、整備等）</p>			
表彰要旨	<p>昭和 35 年地場建設業者約 200 社の出資により、日本初の建設機材レンタル業として設立。広島以西に充実したネットワークを駆使し、九州の建設機材、機械レンタル業界で売上第 1 位を占めるパイオニア的存在である。</p> <p>水田氏は平成 10 年 3 代目社長として就任以来、地域社会と共存し、「環境社会適応型企業」を目指し、従来の「建設」に「福祉」「環境」「食」を加えた新しい事業を展開。地域密着型企業として発展している。特に、平成 12 年より少子高齢化社会を見据えた事業「介護福祉器具レンタル・販売」に着手し、この 5 年間で特約店が 750 店を超え、福祉、環境、食部門の売上として 43 億円を計上、売上全体の約 30%を占めるようになった。</p>			

た。5年後の2010年には85億円と売上全体の50%を予定しており、建機レンタル中心の建設部門からの事業転換を図っている。

また、高齢者の雇用創出と食料自給率の向上を目指して、平成17年より新時代の栽培システム「アグリ事業」を始動。「アコルくんのすいさい園」と名づけられた敷地面積約4000坪の規模を誇る国内屈指の大型植物工場である「TGL植物工場」において、太陽光と人工光を併用して「水耕栽培」により野菜を栽培する事業を展開。ハウス内の空間を利用した4段式で栽培面積は通常の平面栽培の4倍の収穫が出来る立体栽培を行い、季節に関係なく無農薬でビタミンが豊富な品質の良い野菜（サニーレタス、グリーンリーフ等の葉菜野菜類やスプラウト類）が通常露地栽培の約2倍の速さで1年中安定して収穫できる。また、単純な生産工程であり手がかからない為、作業人員は25～30名程度ですみ、その6割は60歳以上の高齢雇用者を採用している。

この葉菜野菜類の栽培は日本初で、特許を取得。現在、見学者の申し込みも多い。

業績面も每期上伸しており、自己資本39億円、自己資本比率も29%と高く、安定している。

2001年にISO9001(2000年版)認証取得。

2年後には株式上場も視野に入れている。

第 33 回（平成 17 年度）経営者賞

氏 名	にしやま やすお 西山 泰雄 氏 (YASUO NISHIYAMA)		
生年月日(年齢)	1943 年 5 月 14 日生 (62 歳)		
会社名(役職)	共立エレックス株式会社 代表取締役社長		
所在地	〒849-4103 佐賀県西松浦郡有田町立部甲 170-1		
TEL & FAX	TEL0955-46-2821 FAX0955-46-4857		
事業内容	電子部品製造業(チップ固定抵抗用各種アルミナ基板、電子回路部品用各種印刷基板等)		
資本金	74 百万円		
従業員数	83 名		
創業・創立	1951 年(昭和 26 年)設立		
工場・営業所	[工場] 本社工場、中国蘇州市 2 工場		
年間業績 (子会社合併)	売上高	経常利益(税引後)	自己資本比率
	2006 年 3 月予想	1,655 百万	103 百万(87 百万)
	2005 年 3 月	1,619 百万	252 百万(233 百万) 44.0%
	2004 年 3 月	1,522 百万	61 百万(41 百万) 41.9%
	2003 年 3 月	1,329 百万	2 百万(9 百万) 41.9%
海外子会社	蘇州共立電子工業有限公司(100%出資) <ul style="list-style-type: none"> ・資本金 620 百万 ・従業員 310 名(内中国人 307 名) ・設立 1994 年(平成 6 年) ・工場 2 ヶ所 ・生産品目 電子部品用アルミナ基板 		
表彰要旨	<p>1951 年(昭和 26 年)佐賀県嬉野町にて炭素皮膜抵抗器用碍子、碍管メーカーの共立製磁(株)として設立。2001 年に共立エレックスに社名変更。</p> <p>西山氏は創業者である先代社長逝去の後、昭和 53 年に 34 歳の若さで社長に就任。IT 産業革命進展の中で積極投資と攻めの経営により、今では「西に共立エレックスあり」といわれる程、業界では「技術者集団」として高い評価を受けている。</p> <p>近年エレクトロニクス機器の小型化、軽量化を図るため、回路の IC 化が進み、パッケージや周辺回路の高密化が重要となっている中、こうしたハイブリッド IC 化に対応するため、当社は「魔法の石」と呼ばれるニュー</p>		

ーセラミックス基板の開発において、他社に先駆けていち早く着手し、現在ではこの分野における専門メーカーとして確固たる地位を築いている。

特に、1994年（平成6年）には業界の競争力に欠けるとの判断で、中国蘇州市への独資工場の進出により、蓄積してきた経営ノウハウを活かし、既存アルミナ基板事業の中国での一貫生産体制を確立させ、これによりコスト減、市場占有率を高め、高付加価値付与を図った。中国への進出により、現在当グループの主力事業であるチップ抵抗器用アルミナ基板（電子回路を構成するのに欠かせない基本電子部品で携帯電話やパソコン、テレビ等あらゆる電子機器の内部回路に使用されている）では、現在専門業者としては世界で5社しかないが、当社は月産の生産能力で本社200万枚、中国で800万枚と業界世界シェア15%を占めるまでに至っている。また、厚膜回路印刷基板は自動車用としての用途が多く、1台で20個程が搭載されており、従って市場での競争力が非常に高く、世界の自動車の3台に1台は当社製品が使用されている。その他、特殊電子部品基板であるアルミナ基材の特性を活かした当社の特許製品である電子部品の「高輝度チップLED用アルミナセラミックパッケージ」がある。このLEDは携帯電話、パソコン、信号機、家庭用の蛍光灯に代わる光源として現在非常に注目されている分野である。このようにアルミナ基板の製造技術開発力で、多くのエレクトロニクスや自動車メーカーから高い評価を受けている。

業績面では収益性において変動はあるものの流動比率126%、自己資本比率44%と企業体質に於いても極めて健全である。

現在、西山氏は有田ニューセラミックス研究会会長、(社)佐賀県貿易協会副会長の要職にあり、地域企業の発展にも貢献している。

平成13年には、「電子部品用アルミナセラミックス基板の開発と海外進出によるセラミックス産業の発展に貢献」によりKFC賞を受賞。

平成14年に中国で、平成15年に日本で、ISO9001(2000年版)認証取得。

第 33 回 (平成 17 年度) 経営者賞 特別表彰

氏 名	故 ^{きむら} 木村 ^{じゅんじ} 順治 氏 (J U N J I K I M U R A)		
生年月日(年齢)	1932 年 4 月 3 日 生 (享年 73 歳)		
会社名(役職)	北九州病院グループ 会長		
所在地	〒803-0812 北九州市小倉北区室町 3 丁目 1-2		
T E L & F A X	TEL093-561-0039 FAX093-582-1103		
事業内容	病院、健康診断・人間ドック、老健施設、居宅事業等		
資本金	321 百万円		
従業員数	4,200 名		
創業・創立 施設	1955 年(昭和 30 年)設立 病院 11 ケ所、健診診療所 4 ケ所、介護老人保健施設 3 ケ所、 居宅事業所 4 ケ所、デイサービス施設 1 ケ所 総ベッド数 3,500 床		
年間業績 (グループ)	売上高	経常利益(税引後)	自己資本比率
	2006 年 3 月 予想 35,000 百万	1,500 百万	27.0%
	2005 年 3 月 32,563 百万	1,189 百万(723 百万)	25.2%
	2004 年 3 月 32,379 百万	489 百万(191 百万)	24.3%
	2003 年 3 月 31,039 百万	552 百万(643 百万)	23.1%
関連会社	(医)北九州病院(病院・老健経営)、(財)西日本産業衛生会(健康診断・人間ドック)、進和興産(株)(薬品卸)、北進産業(株)(病院給食)、(社福)敬愛会(特養・軽費老人ホーム)、北九州ヘルスケアサービス(株)(居宅事業)、(学)創心会 西日本看護専門学校(看護師養成)、(財)西日本奨学会		
表彰要旨	1955 年(昭和 30 年)、古い旅館を改築し、50 床の結核病院(北九州中央病院)として設立。昭和 31 年北九州病院に改称。 木村氏は、昭和 60 年福岡相互銀行(現、西日本シティ銀行)の取締役を務めながら、北九州病院の理事としてグループ再建のため経営に参画。平成 13 年、同グループの会長に就任した。昭和 60 年当時、同病院は、創立 30 周年を迎えて存亡の危機に陥っていたが、木村氏の身を投げ打って		

の経営努力により、破綻必至の状況から見事に蘇り、現在では職員数 4,200 名、病床数 3,500 と、医療、介護、看護師育成、そして食材、医療品の取扱いまで行なう九州一の医療機関グループ(11 病院、4 健診診療所、3 介護老人保健施設等)に発展した。地域総合医療の充実と拡大を図った功績は非常に大きい。

また、基本理念「信頼、協調、貢献」のもと、地域に根ざした医療の提供に努め、特に昭和 45 年設立の健診部門「西日本産業衛生会」は現在年間 32 万人が受診するなど、全国でも大手に入る健診機関に成長したし、平成 7 年に開設された福岡県で 6 番目となる厚生省指定の「救命救急センター」は、現在年間 4,200 名の救急患者の治療に尽力している。

また、高齢者医療も早くから事業の柱として取り組んでおり、平成 13 年には老人保健施設を開設。その他、居宅医療介護にも力を入れている。

平成 17 年にはガンの早期発見を目的に、福岡県で 3 番目となる「PET 装置」を導入。二人の専門医が担当する二重診断体制を取るなど、最新医療の地域への提供にも貢献している。

業績面においても、グループ売上、収益とも右肩上がり、自己資本 96 億円、自己資本比率 25%と高く安定している。また、福祉面でも平成 5 年に県内の恵まれない青少年に対し助成金を給付する(財)西日本奨学会を設立し社会貢献にも寄与している。

平成 17 年、創立 50 周年を機に、各施設での清掃活動、健康講座、オープンホスピタルなど、北九州病院グループあげてのボランティア活動もスタートさせ、地域との交流を深めている。

木村氏は平成 7 年より北九州商工会議所議員となり、同所の税制・金融委員会委員長として地域経済界の発展にも尽力されたが、惜しくも平成 18 年 2 月 18 日に逝去。